

## 多文化共生： 誇り・心・希望を広げよう！

<b>実践場所</b>	愛知県	豊田市立西保見小学校	<b>実践者</b>	幸田 隆
<b>対 象</b>	小学校6年生		<b>時間数</b>	70時間
<b>担当教科</b>	6年全教科(理科と書写を除く)		<b>実践教科</b>	総合的な学習の時間40、学級活動9、社会7、外国語活動4、国語3、音楽3、行事3、道徳1
<b>ねらい</b>	1. 自文化(主にブラジルと日本)に関する学習を通して、誇りを高める。「誇りをもって生きよう！」 2. お互いの文化を教え合い、認め合いながら、高め合う関係を築く。「心を伝え合おう！」 3. 希望のある社会を築くために、自分ができることをする。「希望を広げよう！」			
<b>実践内容</b>	<b>時間</b>	<b>プログラム</b>		<b>備 考</b>
	18 (3) (3) (8) 1 1 1 1 2 1 1 (2) (2) 10 (5) (4) (1) 42 (4) (4) (1) (4) (6) (13) (2) (8)	<b>1. 誇りをもって生きよう！</b> ① 学校のよさを宣伝しよう！(国語) ② 保見の史跡を訪ねて、地元の誇りを見つけよう！(社会見学) ③ <b>自分の文化の誇りを見つけよう！</b> (総合) ・ 自分らしさって何？ ・ ○○人としての誇りはどれくらい？ ・ 日本人の誇り・ブラジル人の誇りを予想しよう ・ ブラジル移民の歴史 〈ビデオ視聴「水野龍： そのとき、歴史は動いた」〉 ・ <u>ブラジル人の誇り</u> 〈ブラジル海外研修〉 ・ 日本人の誇り ・ 震災時の日本人の行動に関する世界の評価 〈ツイッター、Youtube〉 ・ ブラジルにおける日系人の評価 〈ブラジル海外研修〉 ④ 日本の伝統芸能(能・和楽器)を体験しよう。(音楽) ⑤ 和の文化を写真で表現しよう。(行事： 修学旅行) <b>2. 心を伝え合おう！</b> ① 文化を教え合おう！(学級活動) ・ 個別に題材を選び、調べ学習をしたものを発表 ② 友達からポルトガル語・スペイン語を学ぼう！(外国語活動) ③ 文化の違いを尊重し、高め合おう！「ペルーとともに」(道徳) <b>3. 希望を広げよう！</b> ① クラスの絆を深めるためにできることをしよう！(学級活動) ・ クラス憲法作り、ブラジルの遊び、協力ゲームなど ② 戦争の原因を知り、平和に必要な力を学ぼう！(社会) ③ 地球の現実と希望を歌から学ぼう！(音楽) ④ 夢をかなえた地球人から学ぼう！「トリア先生とMR. K」(総合) ⑤ 難民問題を知り、カンボジアの子のおもちゃを作ろう！(総合) ④ 学芸会の多文化共生劇を創ろう！ 地域に広げる(総合・行事) ⑤ 児童集会で学びを発表しよう！ 全校に広げる(総合) ⑥ 多文化共生のよさをビデオで伝えよう！ 豊田市に広げる(総合)		誇り新聞作り 郷土資料館専門員 アイデンティティタワー 4つのコーナー KJ法 テレビ番組ビデオ インタビュービデオ インタビュービデオ 能楽協会名古屋支部 旅館の女将さん 写真 ブラジル・ペルー人児童 資料「ペルーとともに」 プレーンストミグ グループワーク 歌謡曲のCD 日系ブラジル人教師 NGO幼い難民を考える会 多文化共生アンケート パワーポイントスライド ビデオ
<b>成 果</b>	学級の児童の約3分の2が、卒業アルバムの文集で、小学校時代の一番の思い出として、多文化共生に関する自分の成長をテーマに選び、作文を書いた。例えば、日本人児童と外国人児童双方が、文化的な違いをネガティブなものとしてではなく、面白いものとしてとらえるようになったこと。また、相手文化のよさが自分の成長につながり、お互いの絆が深まったことへの喜びを表現している作文も多かった。			
<b>課 題</b>	多文化共生力の系統的に育てていくためには、学年別の年間指導計画を作成し、学校全体を挙げての実践に取り組んでいくようにしたい。これにより、学年間でのスパイラル(反復)学習も可能になり、多文化共生力の定着につながる。			
<b>備 考</b>	今年度の研究実践のテーマを「多文化共生」として、年間を通して、合科的・関連的・継続的な学習を展開した。			

# 1 はじめに

本校は、全校児童の約6割がブラジル人を中心とする外国籍児童である。子どもたちの日常生活は多文化共生体験そのもの。本学級も外国籍児童が約半数を占める。現在のクラスは5年生の時から持ち上がりだが、当初は、次のように、日本人児童と外国籍児童が対立する状態だった。

## 日本人児童の声

ブラジル人は、いつもブラジル人同士で固まってポルトガル語で話している！授業中におしゃべりをしたり、給食の準備の手伝いもしない。ルールや約束を守らないで、わがまま！

## ブラジル人児童の声

日本人は、日本人だけで内緒話をしている！日本語を早口で話すから話に入れない。がんばって日本語で話していて、上手く言えないとき、「もういい」って言われた。優しくない！

違いが原因でぶつかり合うのは自然なこと。でも、違いにはポジティブな面もある。「違いがあるからおもしろい！」「違いがあるから助け合える！」ことを実感してほしい。違いを認め合い、生かしながら、よりよい社会を築く力をつけてほしい。このような多文化共生力を育てたい。

「ブラジル・日本の遊びを楽しもう」、「ブラジルのピリンパウを楽しもう」、「日本のわらべ歌で遊ぼう」、「ブラジル料理を作ろう」など、1年生から4年生までも、お互いの文化を知り、絆を深める活動は行ってきた。その都度、日本人児童と外国人児童は歩み寄りを見せる。しかし、すぐに離れる。本当の多文化共生力を育てるには、長期間、継続的、体系的に実践を続ける必要性を痛感した。そこで、今年度は、「多文化共生力： 誇り・心・希望を広げよう！」を研究テーマとして、関連している教科・領域・行事・学級経営すべてを生かし、年間70時間を使って、実践を行って来た。

# 2 実践の様子

## 2-1 誇りをもって生きよう！

### 学校のよさを宣伝しよう！（国語）

国語科のこの単元では、ネガティブにとらえられたことを、ものの見方を変えて、ポジティブに考えるスキルを学び、「誇り新聞」を作った。例えば、右の「誇り新聞」では、本校のよさを「いろんな文化や国籍の子がいて、みんなで学び合い...高め合っているところ。外国の子は明るく、積極的で、おもしろい...日本の子はとても、めんどろみがよく、いろんなことを教えています。」と日本人のA児が表現している。このように、本校に外国人児童が多いことのプラスの側面を紹介していた児童が約3分の1いた。

オスピタリダー  
ジ（歓迎の心）

### 保見の史跡を訪ねて、地元の誇りを見つけよう！（社会）

社会見学で、地域の史跡巡りを行った。「自分たちの暮らしている地域を学ぶのはとても

The 'Pride News' (誇り新聞) is a hand-drawn newspaper with the following content:

- Header:** 誇り新聞 (Pride News), 西保見小学校 (Seihoimi Elementary School), 西保見のいいところ (Good things about Seihoimi).
- Metadata:** 発行日 H.23.5.28 (Issue Date: 2023.5.28).
- Article 1:** 1 いろんな国の子 (1 Children from various countries). Text: 「最初に教室に入ったとき、「おはようございます」と聞かれました。それだけいろんな国の子がいるんだなと思いました。」 (When I first entered the classroom, I was greeted with "Good morning." I realized there are children from so many different countries here.)
- Article 2:** 2 フレンドリー (2 Friendly). Text: 「自己紹介が終わった後、「お名前を教えてください。」と声をかけられました。西保見の子は、仲良くするのがうまいですねと思いました。」 (After the self-introduction, I was asked, "Please tell us your name." I realized that children at Seihoimi are very good at getting along.)
- Article 3:** 3 みんな仲良し (3 Everyone gets along). Text: 「いろんな国籍の子と、いろんな学年の子とも、みんな仲がいいのがいいところです。」 (It's a good place where children from various nationalities and different grades get along well.)
- Other sections:**
  - 西保見祭り (Seihoimi Festival): 「西保見小学校では「西保見祭り」があります。バザー、ゲーム、カラオケ、ゲームやスラム作りなど、とても楽しいお祭りです。」 (At Seihoimi Elementary School, we have the "Seihoimi Festival". There are bazaars, games, karaoke, and slams, which are very fun.)
  - クイズ (Quiz): 「西保見小学校には約何%の人が外国人です。」 (How many people at Seihoimi Elementary School are foreigners?)
    - ① 45%
    - ② 59%
    - ③ 69%
  - 体験エピソード (Experience Episode): 「私が転校してきた時の話です。」 (This is the story of when I transferred to the school.)



面白いし、自分たちの誇りにもなる。」「保見に古墳があることを誇りに思う。」という児童の感想があった。

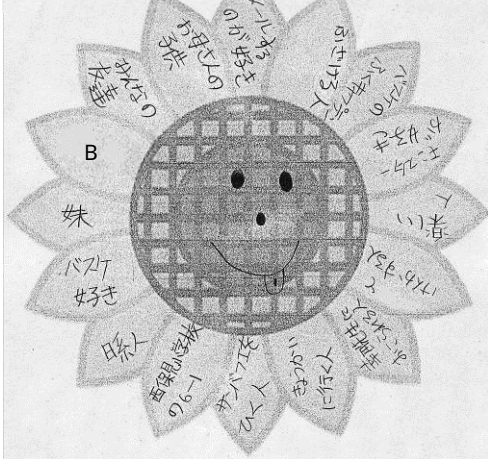
- ・古墳の中は、夏は涼しく、冬は暖かく、すごいいい気持ち伝ってくる。
- ・神社は神様に祈りをするとこで、私は神様のことを信じているので、すごくうれしかった。
- ・伊保古城跡には昔のリーダーがいて、私がそこにいたのでうれしかった。
- ・神社に行き、いやなことがなくなる水を手にかけたらすっきりした。

(すべて、外国人児童の感想)



### 自分の文化の誇りを見つけよう！(総合)

#### ブラジル人B児のアイデンティティ・フラワー



まず、アイデンティティ・フラワーを使って、児童は、「自分らしさとは何か」ということに関して、視点を広げて考えた。日系ブラジル人のB児は、「B(自分の名前)、妹、日系人、サンバ笛を吹く人、教会に行く人、西保見小の6-1、先生におこられる人、みんなの友達、楽しい人...」という右図のアイデンティティ・フラワーを書いた。

次に、「日本人/ブラジル・ペルー・フィリピン人としての誇りはどれくらい?」という質問を投げかけて、「とても誇りに思う」「まあまあ誇りに思う」「あまり誇りに思わない」「全く誇りに思わない」という、「4つのコーナー」のいずれかに移動する活動を行った。11名の外国人児童の中で、9名が

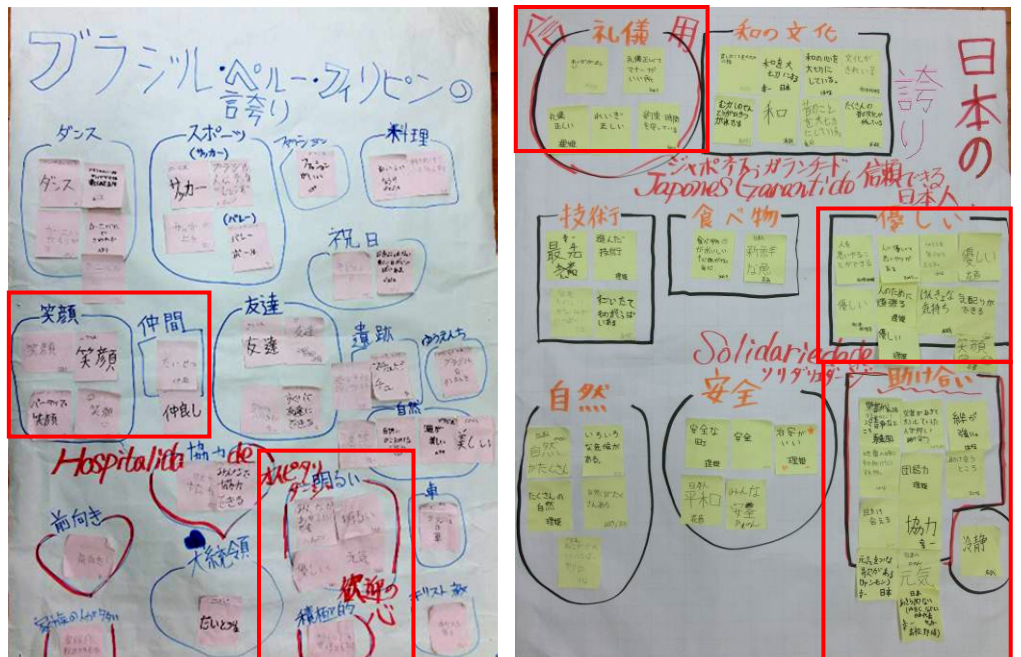
「(ブラジル・ペルー・フィリピン人であることを)とても誇りに思う」コーナーにいた。一方、15名の日本人児童の中で、4名だけが「(日本人であることを)とても誇りに思う」コーナーに、11名が「まあまあ誇りに思う」コーナーにいた。日本人のC児は次のような感想を書いた。

- ・ブラジル人は、みんなが自分の文化に誇りをもって、「いいな」と思いました。日本人はクラスの30%ぐらいしか誇りを持っていなかったから、日本人も自信をもって、「誇りがある」と言えたらいい、と思います。ブラジル人と日本人と真逆で、明るくて、おおらかで、何もかも許すから、ぼくはブラジルが好きです。(日本人C児の感想)

#### 4つのコーナー

<b>まあまあ誇りに思う</b> ・日本人児童 11名 ・外国人児童 1名	<b>とても誇りに思う</b> ・日本人児童 4名 ・外国人児童 9名
<b>あまり誇りに思わない。</b> ・日本人児童 0名 ・外国人児童 0名	<b>全く誇りに思わない。</b> ・日本人児童 0名 ・外国人児童 1名

「自分の国の誇りを考えよう(予想しよう)」という活動を、KJ法を用いて行った。ブラジルの誇りとしては、「仲間、笑顔、明るさ、積極的」というキーワード。日本人の誇りとしては、「礼儀、信用、助け合い、優しい(気配り)、和」というキーワードが浮かび上がった。





そして、教師海外ブラジル研修における取材に基づいて作成したパワーポイントの教材を使って、**ブラジル人**がどのようなことを**誇り**に思っているかを伝えた。

<p style="text-align: center;"><b>Orgulho</b> (オルグーリョ)</p> <p style="text-align: center;"><b>ブラジル人の 誇り</b></p>	<p style="text-align: center;">ブラジル人の誇りとは？</p>  <p style="text-align: center;">多くはブラジル人であることを すごく誇りに思う。</p>	<p style="text-align: center;"><b>Hospitalidade</b> オスピタリダージ</p> <p style="text-align: center;">外から来た人を 温かく受け入れる心</p>
<p>言葉を越えたコミュニケーション！</p> 	<p>ブラジルでは、さびしい気持ちに なることがない！</p> 	<p>サンバをまだ見てないの？ ブラジリアの公立高校で</p> 
<p>飛び入り ライブも 大歓迎！</p> 	<p>お産直後の夫婦からも、大歓迎！</p> 	<p>チェル/フィリのとき、政府は... そして、 大震災後の今、 政府は...</p> 

- ・ **ブラジルの誇り**の勉強では、みんな、**いろいろな人を歓迎するところが誇り**と言っていました。ブラジルの人がいどんな価値観を受け入れてくれたり、日本の移民の人が一生けん命、働いてくれたりしたので、日本が信頼される国になって、それはとても感謝したいです。今、西保見小で、ブラジルの子やペルー、フィリピンの子などいろいろな子がいるけど、それも当たり前ではなく、「**周りを豊かにしてくれる大切な存在だなぁ**」と思います。(日系人の子は性格とかすごいなと思う)  
(日本人E児の感想)
- ・ **歓迎する心**は、クラスのブラジル人から、よくわかります。例えば、私が転校してきたときも、ブラジルの子は、すごくうれしそうにしてくれたり、まっさきに、自己紹介などをしてくれました。うれしかった。  
(日本人H児)
- ・ **ブラジル人のみんなは**すごく心が広くて、やさしくていいなと思いました。困っていたら、ぜったいに助けてくれるから、ブラジル人はすごい。Amor(愛)も大事にしているから、やっぱりすごい。ブラジルの生活にはすごく**歓迎**があって感動した。ブラジルに興味をもち始めて、いつかブラジルに行ってみたいなと思いました。  
(ペルー人F児)
- ・ **ブラジル人は**、日本人が自分の国に来たらすごく、**かんげい**してくれるのですごいなぁと思いました。あとブラジル人は、積極的なのですごいなぁと思いました。これを見て、自分は**オスピタリダージの心**をもっともっとつけたいです。(ブラジル人G児)

授業感想で、日本人のH児は、クラスのブラジルの子からも、**ブラジル人の誇り「オスピタリダージ：歓迎の心」**をよく感じられると書いた。ブラジル人G児は「**ブラジル人は歓迎してくれる...積極的ですごい**」と自国の誇り、オスピタリダージに感心をし、自分もその誇りを育みたいという意欲を感想で述べていた。

また、**日系人の誇り**を深く理解するために、「その時、歴史は動いた： 移民は共存共栄の事業なり～ブラジル移民 100年」というNHKのテレビ番組を視聴した。日本人のD児は、ブラジルで、日系移民が「まじめに働いた」おかげで、「Japones Garantido ジャポネス・ガランチャー



NHKテレビ番組「その時、歴史は動いた： ブラジル移民100年」

ド：日本人なら信用できる」という評価を得ていることを知り、自分の誇りが増えたという感想を書いている。

「世界中を豊かにしたい!!!」そう思う人は、たくさんいると思います。私もその1人です。ただ、「豊かにしたい!!!」と思うことはとても簡単です。水野龍さん、鈴木貞次郎さんは「移民」という形で、行ったのです。とても、すごいことだと思います。「**Japones Garantido 日本人なら信用できる**」この言葉を聞いたとき、**私は、日本の誇りがもっと増えました。**鈴木貞次郎さんが見本の日本人の資質、「まじめに働く」これがブラジルへの移民へのポイントだと思います。日本人の「まじめに働く」がなかったら、ブラジル人は(すべてを自分でしなければならぬので)仕事が大変。どちらも苦しくて、水野龍さんが望んだ「**共存共栄**」にはならないと思います。私は「さすが日本人」だと思います。(日本人D児の感想)

**Orgulho**  
(オルゲーリョ)  
**日系人の 誇り**

日系人はどのように思われている?  
日系人の **誇り** **勤勉さ**



“Japones Garantido”  
日本人なら **信頼** できる



日系人の **誇り** **助け合い**  
Solidariedade ソリダリエダージ



日系人の **誇り**: **助け合い** 汎アマゾン協会



日系人の **誇り**: **助け合い**  
トマス総合農業組合



「**日系人は、2つ、3つの価値観をもつ、周りを豊かにする存在**」私は、もっともこのことを知ってもらいたいと思います。日本人だけで作ったものに、外国の子の考えが入れば、よりよいものができると思います。クラスでもやっぱり、日本の子が考えることと、外国の子が考えることは少し違うと思います。それを上手に混ぜることで、仲のいいクラスができると思います。それに、**日系人の子は、母国のラテン系の文化もあって、日本の文化もあって、先生が言ったみたいに、日本人と違うと思います。それは、それで、おもしろい**です。(日本人D児の感想)

さらに、**日系人の誇り**に関する理解を深めるために、教師海外研修の取材をもとに作成したパワーポイントの教材を使ってプレゼンテーションを行った。

ブラジル・ペルーの10名の児童は全員日系人である。これまで自分をブラジル人、ペルー人と呼んでいたが、この授業の後、自分のことを「私は日系人！」として言及することを聞くようになった。ブラジルにおける日系人のポジティブなイメージに誇りを感じたためだと思われる。また、日本人のD児は、日系移民のテレビ番組の中の「日系人は2つ、3つの価値観をもつ、周りを豊かにする存在」という話とプレゼンテーションを結び付けて、日系文化とラテン系の文化を併せ持つブラジル・ペルー人児童のよさについて感想の中で語っていた。

東日本大震災の時の日本人の行動に関して、世界中から、ツイッターで、賞賛の声が寄せられた。この情報も**日本人の誇り**を育むために、授業で紹介した。児

**東日本大震災に関する ツイッター**

**国連**からのメッセージ @akitoksk  
「国連からのコメント「日本は今まで世界中に援助をしてきた援助大国だ。今回は国連が**全力で**日本を援助する。」に感動した。**良い事をしたら戻ってくる**のです。これがいい例なのです」

**ドイツ人の友達** @sikkoku\_otsuyu  
「ドイツ人の友達が地震が起きた時に渋谷に居て、パニックになっていた所を日本人に助けてもらったらしく、その時の**毅然とした日本人の態度や足並み乱さず**に店の外に出てやるべきことを慌々とかさず容にひどく感動した。」

**外国人から見た日本人** @kiritansu  
「外国人から見た地震災害の反応。物が散乱しているスーパーで、落ちていたものを律儀に拾い、そして列に黙って並んでお金を払って買い物をする。運転再開した電車で混んでいるのに妊婦に席を譲るお年寄り。この光景を見て外国人は絶句したようだ。本当だろう、この話。すごい日本。」

**整列する日本人** @HASUNA\_Natsuko  
「日本人すごい!!こんな時にも山手線がホームできれいに整列してる…涙。有楽町駅を土から跳む。 http://twitpic.com/48knlu」



童の発言や様子から「日本人はすごい！」という意識が児童の間で広がっていくことが感じられた。

日本の伝統芸能を体験しよう！  
(音楽)



日本舞踊を楽しむブラジル人児童

和の文化を写真で表現  
しよう！(修学旅行)



「将軍に面会する大名たち」を表現！

やのような活動を通して、和の文化の体験を重ねるにつれて、児童は、和の文化への親しみを深め、「(文化の)違っていて、おもしろい！」という意識を持つようになっていった。

2 - 2 「心を伝え合おう！」  
文化を教え合おう！(学活)

「誇りをもって生きよう！」の実践を通して、児童は、自国の文化への愛着と関心を高めていった。自主学習(宿題)で、自国の文化に関する調べ学習を進め、クラスで紹介するようになった。朝学習、給食後の



ブラジルとペルーの学校生活に関して教えるブラジル・ペルー人児童



アイヌ語を教える日本人児童

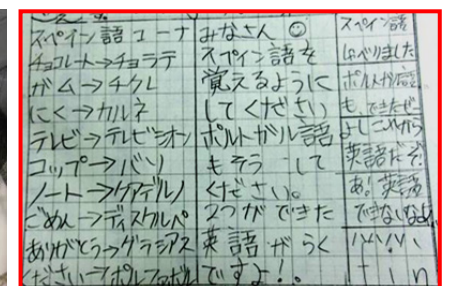
時間などの隙間時間を用いて、この活動を約1か月続けた。外国人児童は、ブラジルとペルーの学校生活に関して、現地の教科書や写真を持ってきて発表した。日本人児童は、おせち料理、配膳のマナー、関西弁、アイヌ語などの日本文化について授業をした。授業を受けている児童は自主的にポイントをメモしたり、意欲的に質問をしたりして、文化の学び合い、相互尊重の心が自然に広がっていった。

友達からポルトガル語やスペイン語を学ぼう！(外国語活動)

外国語活動の1つとして、外国人児童にポルトガル語やスペイン語の先生になってもらい、授業をしてもらう活動を続けてきた。外国人児童は授業以外にも、自主学習で、スペイン語やポルトガル語



ブラジル人児童のポルトガル語の授業



スペイン語紹介：ペルー人児童の自作新聞

の紹介記事をのせた自作新聞を作ってくるなど、自文化を伝えることに熱心に取り組んだ。ブラジル人児童がポルトガル語で話をしているとイライラした様子を見せていた日本人児童が同じ状況で寛容な心を見せるようになった。ブラジル人児童にポルトガル語で進んであいさつをする日本人児童も出てきた。外国人児童は「日本語で話そう」という呼びかけに、素直な心で応じるようになっていった。

2 - 3 「希望を広げよう！」

クラスの絆を深めるためにできることをしよう！(学活)

学級委員を中心に、クラスに意見箱を設置し、多文化共生の希望をクラスに広げる自主的な活動が始まった。意見箱に寄せられた児童の意見をもとに、右のような、クラスの「11条憲法」を作り、クラスに掲示したり、ブラジルの遊びを企画・実施したりしてきた。児童の様子から、自分の力で、自分が生活する社会を協力してよくしていこうという希望が感じられるようになってきた。

11条憲法：絆をもっと深めるために

- 1 言い方に気をつける。
- 2 わからないことは聞く。(ポルトガル語)
- 3 笑顔になる言葉を使う。
- 4 安心できる話し方をする。
- 5 ネガティブをポジティブに変える。
- 6 相手のよいところを生かす。
- 7 短所でなく、長所を広げる。
- 8 テンションを合わせる。
- 9 1日3回、意見を出す。
- 10 学級委員の言うことを守る。
- 11 キレル前に先生に言う。



## 多文化共生劇を創ろう！(総合・学芸会)

多文化共生アンケートをもとに、児童一人ひとりの多文化共生体験を引き出し、多文化共生劇を児童とともに創った。学芸会で45分間の劇「あのと、君が好きになったよ」を上演した。劇を見た保護者の感想などを通して、児童は多文化共生の**希望を地域に広げた**という実感を得ることができた。

「あのと、君が好きになったよ」 西保見小H23学芸会 6年1組 創作劇 上演パンフレット

この劇のテーマは多文化共生。日本人と外国人、一人ひとりちがう人間同士が、どのようにしたら、仲良く、助け合っで生活できるのでしょうか？ 6年1組の多文化共生体験をもとに創ったオリジナルの劇をお楽しみください。

### 場面1： 同窓会へ向かう途中(12年後)

すっごい、夢をかなえたんだ。

みんなが違う仕事をしていると、助け合っていると。



トマトだけの畑みたいなのに、同じものだけだと、結局、助け合うことができなくて、弱くなる...

コンパニオン・プランツで、違う野菜を植えることで、助け合うことができる。違うからこそ、助け合える！



### 場面2： 異文化はつらいよ(今)



♪僕は笑いたいんだ、君も笑いたいんだよね。なのに、ときに、僕たちは認め合えず、嫌になるよね。

自分と違う人... ちょっと変。別に興味ない。分かり合えない！

違う人とぶつかるのは自然。違う人同士は、言い合って初めて分かり合える。



### 場面3： 別々の方がいい？(今)



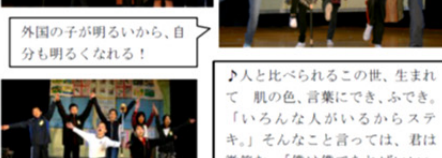
こんなにケンカするのなら、別々に生活した方がいいよね。



### 場面4： みんな違って、みんないい(今)



外国人の子の明るさ、パワー、度胸、尊敬しちゃう！ 違いがあるから、楽しい！



外国の子が明るいから、自分も明るくなる！



♪人と比べられるこの世、生まれて肌の色、言葉にでき、ふでき、「いろんな人がいるからステキ。」そんなこと言っつては、君は微笑む。「僕は僕であればいい」と思える。

外国人は約束を守らない！ はっきり言い過ぎ！ 日本人は細かい！ すぐ傷つく！

私たちは、外国の子から、自分の考えや気持ちをはっきりと伝える大切さを学んでいる。



僕たちは、日本の子から、相手の気持ちを考えて、小さな約束を守る大切さを学んでいる。

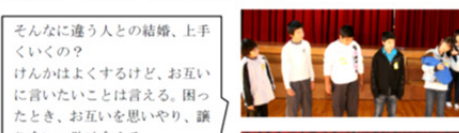


### 日本人と外国人、どうして仲良くなれたの？

- ・違う人といった方が面白いということがわかったから。
- ・お互いのよさを認め合うことができたから。
- ・違う人がいるから、助け合えて成長できるということがわかったから。
- ・共に喜び合い、支え合う日々があったから。

日本の子の多くは先のことを考えて計画することが得意。外国の子の多くは積極的に動くことが得意。お互いのよさを生かして、助け合っている。

### 場面5： そして、未来へ(12年後)



そんなに違う人との結婚、上手くいくの？

けんかはよくするけど、お互いに言いたいことは言える。困ったとき、お互いを思いやり、譲り合い、助け合える。



「そのままの君がいい」

それこそ、愛！

それこそ、アモール！

私たちができたように、日本中、世界中が、違いを認め、違いを生かして、仲良く、助け合ってほしい。

- ・多文化共生、日本人と外国人、考え方の違い、親としても色々なことを感じ、子どもとも接し、生活してきました。西保見っ子は本当に良い経験をし、素晴らしい人生勉強をしています。
- ・「自分は自分」という考え、しかし、共同体では、「協力」が必要という考え、それらを「実行に移す力」、子どもたちがこれらを身につけつつあることに改めて感心しています。多くの子どもが、この問題に積極的に取り組んでいること、分かり合うために何をするか考えて行動する姿は、人として本当に大切なことを学んでいると思い、うれしい気持ちになりました。
- ・この劇は、お互いの違いを認め合うために、とても大切なものだと思います。違う人同士の結婚のように、補い合い、助け合う。劇で学んだことを未来にもって行ってほしい。理解し合い、尊重し合っつて、さらによい世界をつくっていきましょう。(保護者の感想)

## 3 おわりに

多文化共生に関する自分の成長。「違っつて面白い。もっと、いろんな文化を知りたい。」「違いがあるから助け合える。」「外国の子がいて本当によかった。外国の子のよさが自分の成長につながつた。」「クラスの約3分の2の児童が、小学校の一番の思い出として、卒業アルバムのテーマに選んだ。

「なんで、ここに、外人がいるの？」市内の陸上大会で、クラスの外国人児童が、他校の児童から、このように言われた。「自分の国を離れてがんばってきたのに、そんなこと言われたら、つらい...」すぐに、日本人児童が共感を伝えた。この経験をもとに、多文化共生のよさを伝えるビデオを作り、市内の小学校に配布しようという思いがクラスに広がった。現在もビデオの作成に取り組んでいる。

子どもたちが、多文化共生の**希望**であることを信じて、今後も実践を続けていきたい。